

有明海及び八代海における漁業・養殖業の状況及び赤潮発生状況について

- 1 有明海における漁業・養殖業の状況
- 2 八代海における漁業・養殖業の状況
- 3 有明海における赤潮発生状況
- 4 八代海における赤潮発生状況

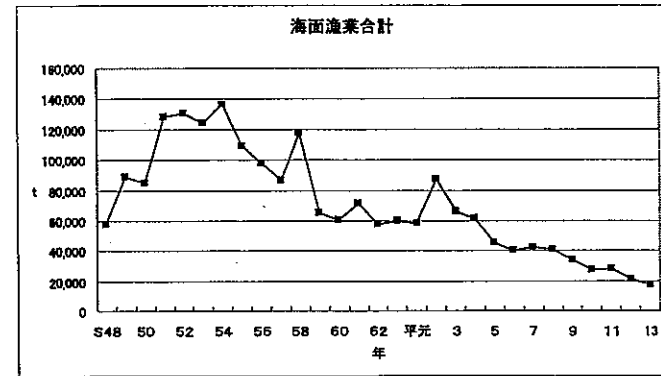
1 有明海における海面漁業及び養殖業の現状

(1) 海面漁業漁獲量

○総漁獲量

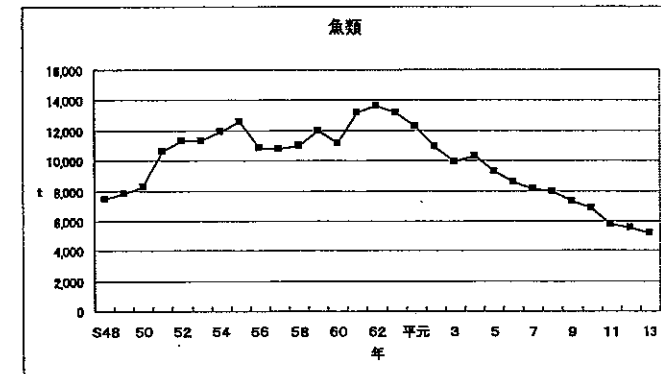
昭和48年からの漁獲量推移については、昭和48年の約6万トから増加し、昭和54年に約14万トでピークとなるが、以降減少傾向となり、平成13年には2万ト以下に減少。

データは昭和48年からとなっているが、昭和51～54年頃の漁獲量が、それ以前の年代を含め最高水準であった。



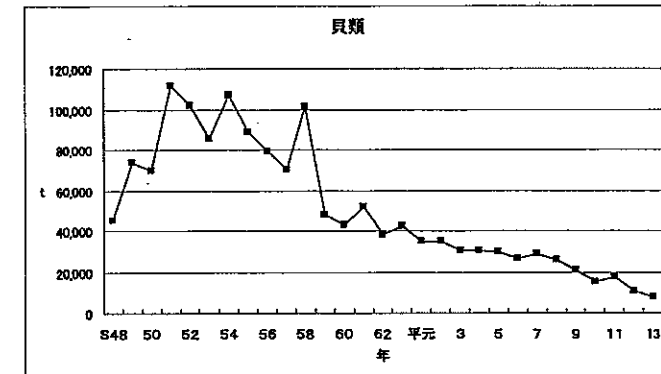
○魚類

魚類は、漁獲量全体の1/10～1/4程度であり、昭和48年の約7千トから増加し、昭和51年に1万ト以上となり、昭和62年に約1万4千トでピークとなるが、以降減少し、平成13年に約5千トに減少。



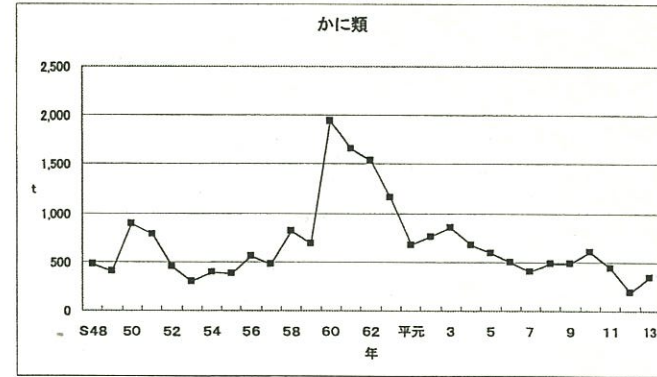
○貝類

アサリを主に殆ど二枚貝であり、貝類は漁獲量の主体を占める。昭和48年の約4万トから急増し、昭和51年には11万トを越え、以後、昭和58年までは7～11万ト前後を推移するが、昭和59年に4万ト台に急減し、以降は減少が続き、平成13年には約8千トまで減少（昭和51年をピークに以降は減少傾向）。



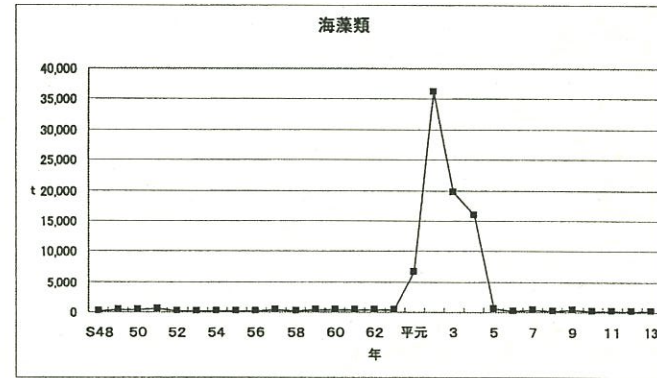
○かに類

大半がガザミであり、昭和48以降概ね3百～9百トで推移するが、昭和60年にはガザミの発生が良好で昭和60年には約2千トに増加し、昭和63年まで1千トを超えた。平成3年以降は変動しながらも減少傾向を示し、平成13年には約3百トに減少。



○海藻類

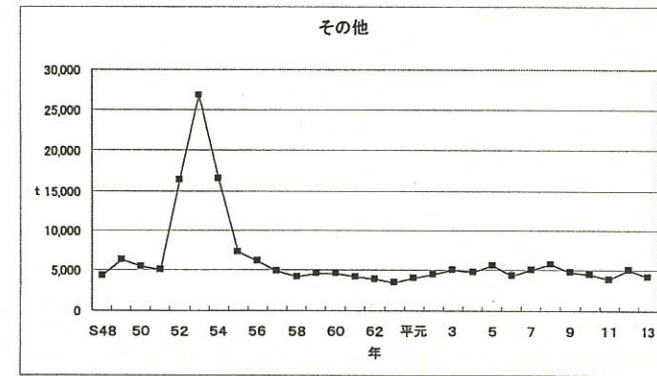
昭和48年以降1百～4百ト台で推移するが、平成元年に熊本県海域を中心としたオゴノリの大量発生により約6千トに急増し、平成2年には約3万6千トでピークになるが、平成5年には約6百トに急減し、以降は元の水準の数百トで推移。



○その他

昭和52年～54年の高い水準は、ヒゼンクラゲ及びビゼンクラゲの大量発生による福岡県を中心とした生産増によるが、それ以外は約3千7百～5千4百トの間を横ばいで推移。

- ・ えび類：昭和48年の1千7百トをピークに減少傾向で、平成13年は約1千ト
- ・ いか類：昭和48以降、昭和60年の2千百トを除き平成2年まで1千ト台を推移するが、以降急増し2千トを越え平成8年には3千6百トでピークとなるが、以降減少傾向となり、平成13年は約2千ト。
- ・ たこ類：昭和49年の約2千5百トをピークに減少傾向で、平成13年は約6百ト。



(2) 海面漁業漁獲量 (県別)

○ 総漁獲量

福岡県：昭和58年に貝類の増加に伴い約6万トとなるが、以降減少し、近年では数千トで減少傾向で推移。

佐賀県：昭和48年以降増加し昭和54年に2万トとなるが、以後減少し昭和59年に約5千トに減少。その後また増加し、平成2年に2万2千トとなり、平成8年まで2万ト弱で推移するが、以降減少し、平成13年には6千トに減少。

長崎県：昭和54年に2万3千トと最大になるが、以降減少し、近年では4千~5千ト程度。

熊本県：昭和48年の3万5千トから貝類の増加に伴い増加し、昭和52年~55年には7万ト以上となったが、昭和55年以降急減。平成2年に藻類の増加により約5万トに増加するが以後減少し、平成7年以降約5千トで推移。

○ 魚類

福岡県：ほぼ1千ト以下であるが、昭和63年以降は減少傾向にあり、平成13年は約3百ト。

佐賀県：約1千5百~3千トを推移。昭和62年頃まで増加傾向であったが、近年は減少傾向で、平成13年に約1千4百ト。

長崎県：約3千ト台から昭和53年の約6千トにまで増加したが、昭和62年以降減少傾向で平成13年には約1千7百ト。

熊本県：約2千~4千ト台を推移。昭和62年頃まで増加傾向であったが、近年は減少傾向で平成13年に約1千6百ト。

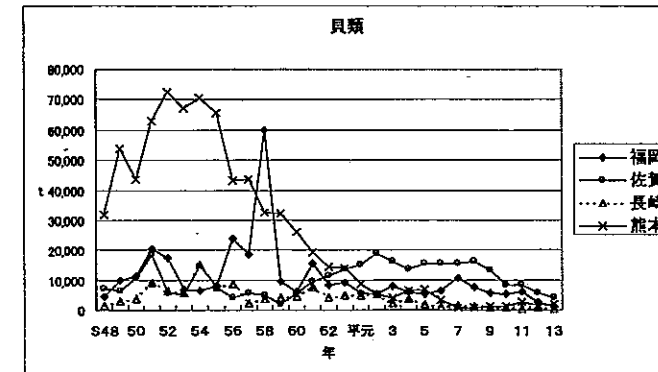
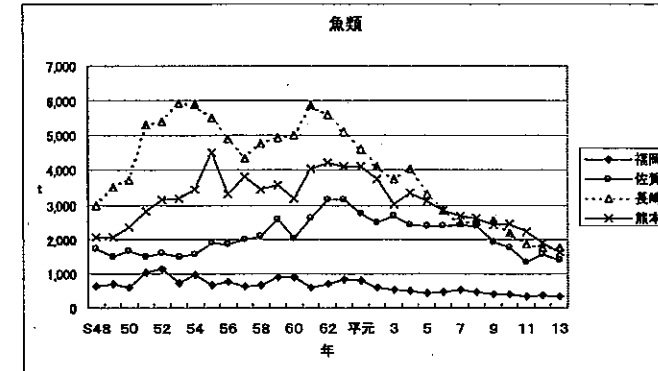
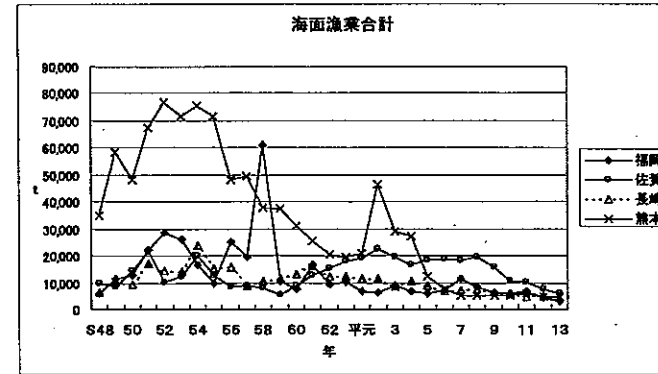
○ 貝類

福岡県：約4千ト~2万3千トと年変動が大きい。昭和58年に一時的に約6万トに増加したが、以降は数千ト台で減少傾向。

佐賀県：昭和60年以前は概ね1万ト以下で推移していたが、昭和61年~69年までは1万ト以上となる。平成9年以降は減少傾向を示し、平成13年には約4千ト。

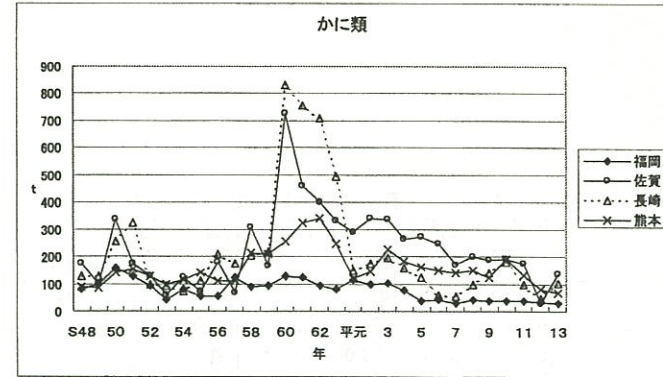
長崎県：一時的に平成54年に1万ト以上となるが、数千トで推移し減少傾向で、平成9年以降は数百トに減少。

熊本県：昭和48年から昭和50年代は、アサリの豊漁により3万から増加し、昭和52年と昭和54年に7万ト以上となったが、昭和55年から急減し、近年は数千ト。



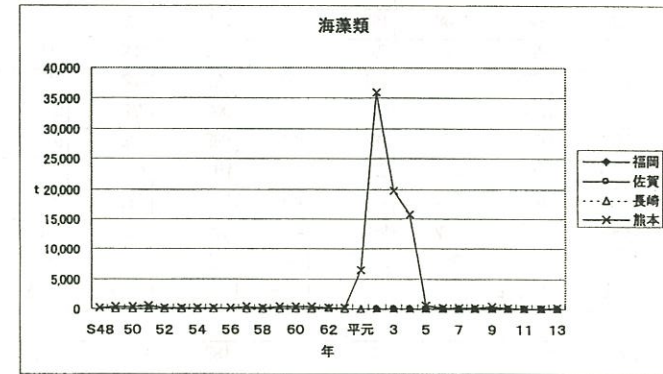
○かに類

各県とも約1百～2百トを推移するが、昭和60年に長崎及び佐賀県において7百トを越えたが、以降急減し、平成13年には昭和60年以前と同程度。



○海藻類

漁獲量の殆どが、熊本県の漁獲量。昭和48年以降数百トで推移していたが、平成元年にオゴノリが大量発生したことから約6千トに急増し、平成2年には3万6千トでピークになるが、平成5年には6百トに急減し、以降数百トで推移。



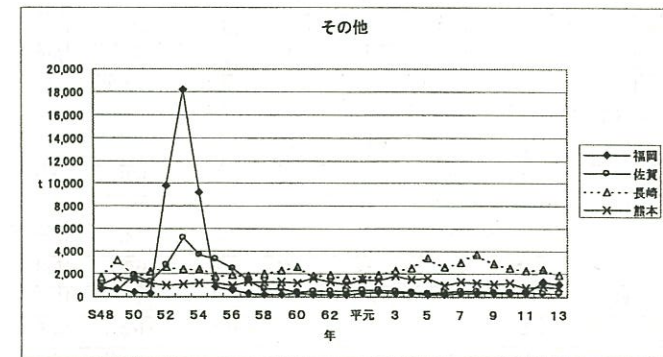
○その他

福岡県：昭和52～54年に、ヒゼンクラゲ及びビゼンクラゲが大量発生し、昭和53年には1万8千トとなるが、それ以外は、約2百～2千トを推移。

佐賀県：昭和50～57年の間は1千トを越え、昭和53年に約5千6百トになるが、以降減少し、昭和58年からは3百～7百トで推移。

長崎県：1千5百～3千7百トで推移。

熊本県：平成10年まで1千～1千8百トで推移するが、平成10年から若干減少し、約8百トで推移。



(3) 主要魚種別漁獲量

主要魚種の漁獲量は、昭和60年代以降総じて減少傾向。

- マダイ：3百～4百トで安定的に推移。
- アナゴ類：H6年以降増加しH10年に80トになるが以降減少。
- サルボウ：S60年以降増加し1万5千ト台となるがH9年頃より減少し、H13年は約5千ト。
- タイラギ：S60年以降増加傾向にあり、H2年には約7千トンでピークになるが以降急減。H8年に再び約4千トンに増加したが以降急減し、H13年は34トン。
- アゲマキ：S60年には4百トから増加するがS63年の約8百トをピークに減少し、H5年以降殆ど漁獲がない。

単位：ト

	S60	61	62	63	平元	2	3	4	5
コノシロ	1,177	1,477	2,169	2,235	1,969	1,748	1,881	1,609	1,664
シタビラメ	869	1,029	1,130	1,021	897	750	703	696	550
ニベ・グチ類	1,048	1,221	1,079	896	703	625	634	919	610
アナゴ類	0	0	0	0	15	13	22	18	9
マダイ	298	429	373	321	340	354	332	389	399
ボラ類	842	863	893	911	716	663	480	437	377
スズキ類	599	503	459	527	452	312	282	264	227
クルマエビ	494	535	315	258	300	263	427	198	211
ガザミ類	1,782	1,440	1,334	1,021	533	644	693	587	524
アサリ類	29,505	32,477	20,367	16,576	8,974	5,189	4,088	7,259	9,110
サルボウ	3,723	5,686	7,902	12,845	14,619	16,908	16,146	14,857	16,689
タイラギ	2,379	6,246	4,271	5,004	5,173	7,343	5,699	2,637	723
アゲマキ	426	644	655	777	711	432	105	27	4
コウイカ類	1,175	758	779	616	563	478	665	772	538
タコ類	873	958	881	954	1,210	975	984	956	1,242

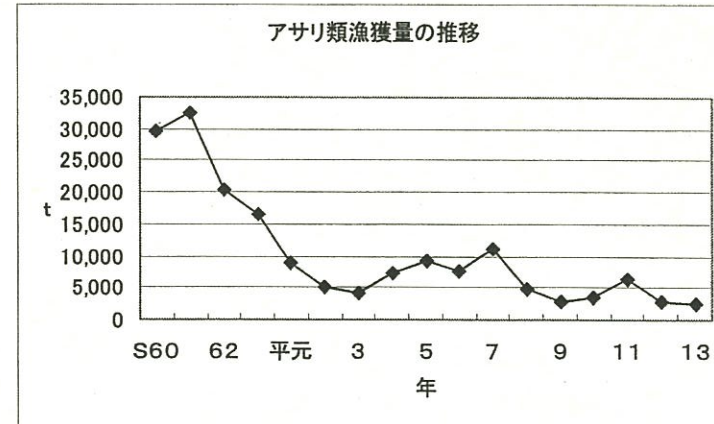
	6	7	8	9	10	11	12	13
コノシロ	1,671	1,965	1,677	1,488	1,420	976	1,214	1,070
シタビラメ	443	454	496	459	434	450	313	259
ニベ・グチ類	664	593	553	554	474	326	298	306
アナゴ類	8	47	64	80	83	62	56	37
マダイ	386	369	363	313	386	402	382	358
ボラ類	363	372	490	312	360	307	417	352
スズキ類	197	204	236	184	163	169	127	122
クルマエビ	357	385	321	234	182	119	78	56
ガザミ類	423	331	409	424	551	397	143	301
アサリ類	7,514	11,105	4,810	2,801	3,563	6,361	2,913	2,399
サルボウ	17,299	15,424	16,324	14,123	10,087	10,408	7,264	4,899
タイラギ	244	814	3,786	3,432	1,181	319	45	34
アゲマキ	3	0	0	0	0	0	0	0
コウイカ類	372	406	683	513	579	467	403	349
タコ類	850	1,003	1,032	922	974	739	992	636

資料：農林水産省統計情報部「海面漁業生産統計調査」により作成

(4) 貝類の漁獲量

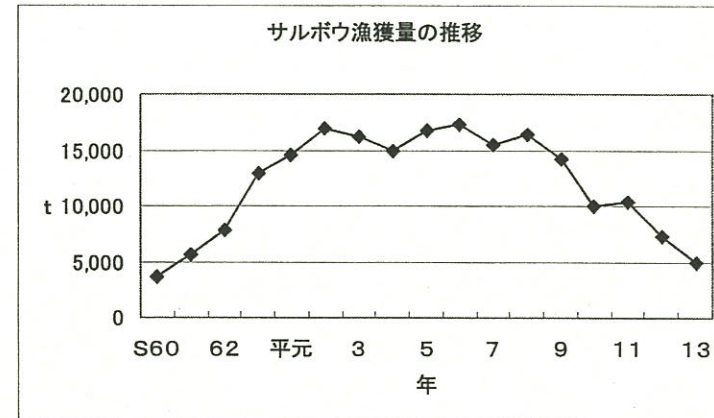
○アサリ

昭和60年以降では、昭和61年に約3万2千tが最大で、以降急減し、平成3年には約4千tにまで減少。平成5年及び7年に約1万tに増加するが、減少傾向にあり、平成13年には約2千tで、昭和61年の1/10以下。



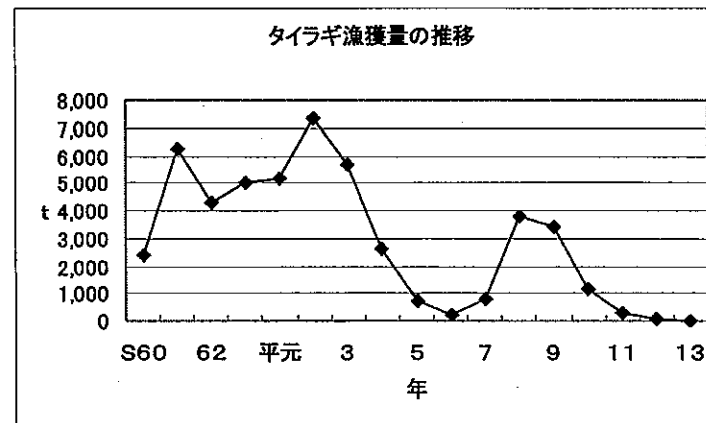
○サルボウ

昭和60年以降は、増加し平成2年1万5千tを越え、平成8年まで1万5千t以上の水準であったが、平成9年頃より減少し、平成13年は約5千t。



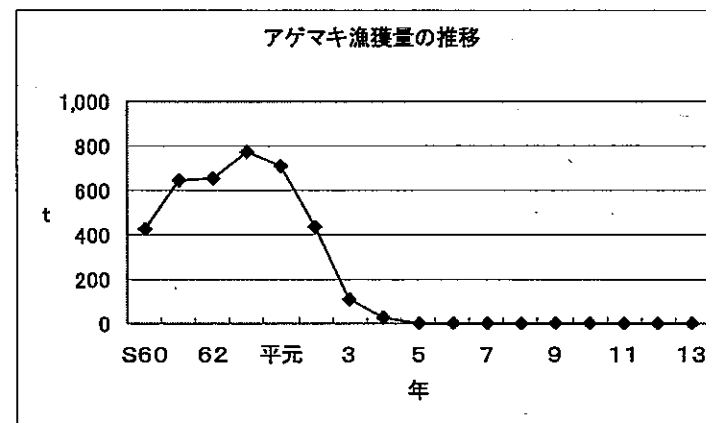
○タイラギ

昭和60年以降増加傾向にあり、平成2年には約7千トでピークになるが以降急減。平成8年に再び約4千トに増加したものの以降急減し、平成13年は34トで、平成2年の1/100以下に減少。



○アゲマキ

昭和60年の約4百トから増加し昭和63年の約8百トでピークとなるが、以降急減し、平成5年以降殆ど漁獲がない。



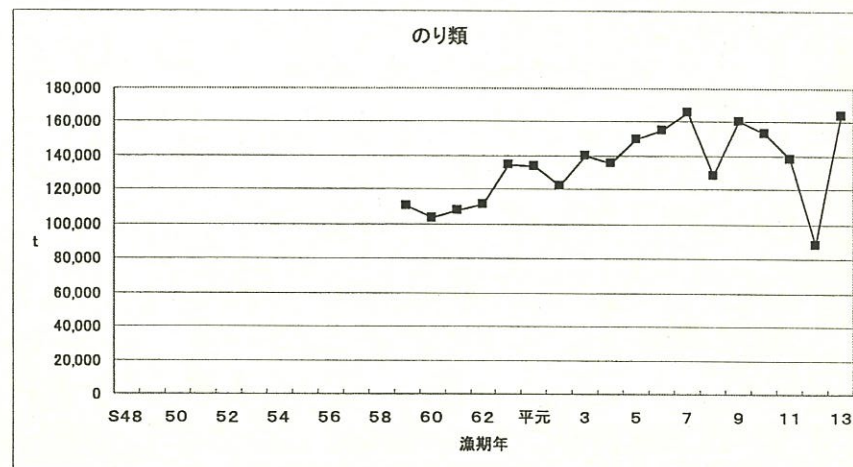
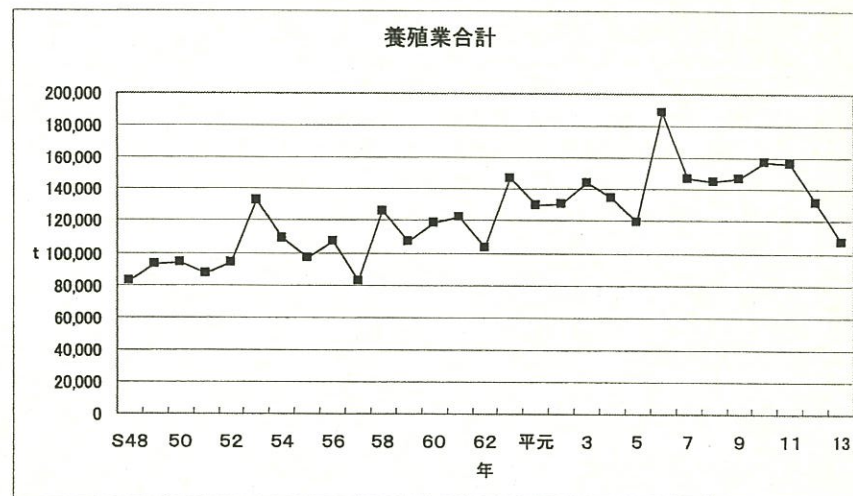
(5) 養殖業生産量

○総生産量

有明海の養殖生産のほとんどはノリ養殖であり、昭和48年以降の暦年の生産量は増加傾向である。

○ノリ類（漁期年）

昭和58年以降、10万ト以上の生産量で増加傾向であったが、平成12年度漁期に平年を大きく下回り約8万8千トとなり、過去最高であった平成7年度の約16万トの約1/2に減少。平成13年には平成7年度と同様の約16万トの生産量となった。



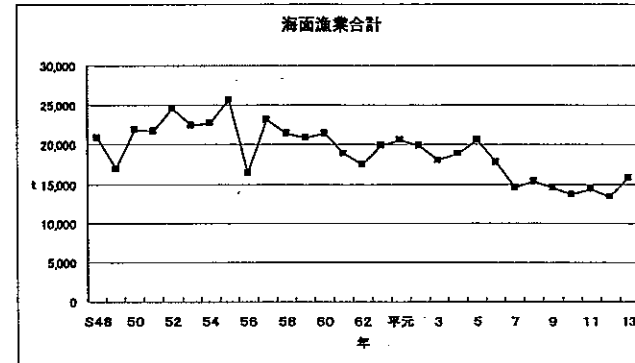
2 八代海の海面漁業及び養殖業の現状

(1) 海面漁業漁獲量

○総漁獲量

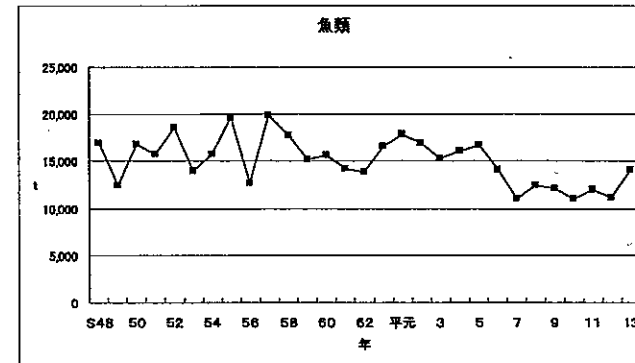
昭和48年以降、昭和55年までは約2万～2万5千トンを推移し、昭和56年に1万6千トンに減少するが、以降平成5年まで2万トン前後を推移。平成7年以降は1万5千トン前後を推移。

全体としては、昭和55年をピークに減少傾向。



○魚類

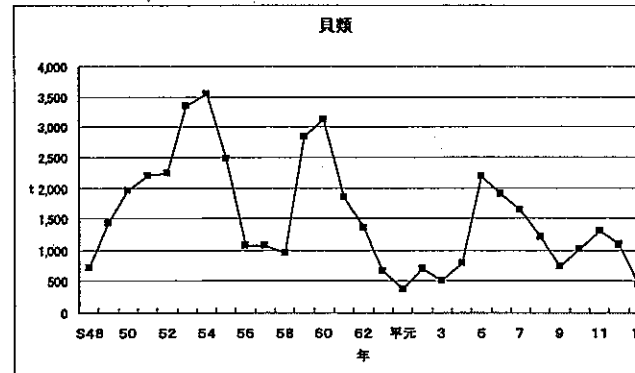
漁業生産の主体である魚類は、昭和48年以降、約1万5千トン前後で増減しているが、平成5年年から減少傾向となり、平成7年以降、約1万2千トン前後で推移。平成13年は1万4千トンと若干増加。



○貝類

アサリが主体であり、数年に1度大発生する二枚貝の特長が見られる。昭和48年の7百トンから急増し、昭和54年に約3千5百トンでピークになるが、以降急減し、昭和58年に約1千トンに減少。以後昭和60年の約3千トン、平成5年の約2千2百トンに増加するが総じて減少傾向。

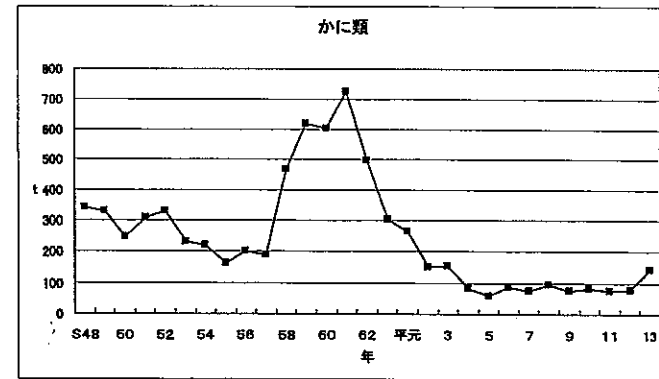
また、昭和54年を最大値として、大発生時のピーク値が次第に低くなる傾向。



○かに類

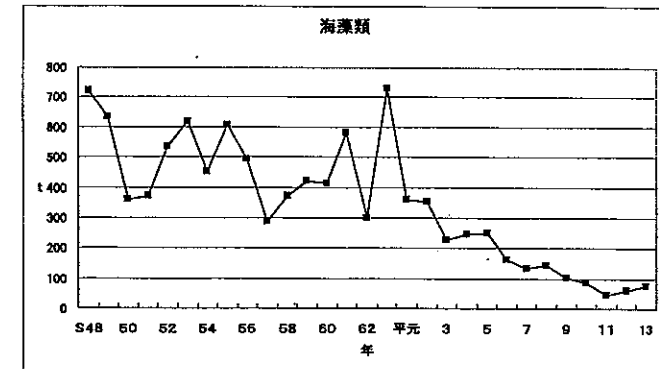
昭和48年から昭和57年までは3百ト台から減少傾向にあるが、昭和58年に増加に転じ、昭和61年に約7百トでピーク。以降急減し、平成4年以降は1百ト以下で推移。平成13年には143トと微増。

なお、平成以降は、昭和48～57年の水準の半分以下に低下。



○海藻類

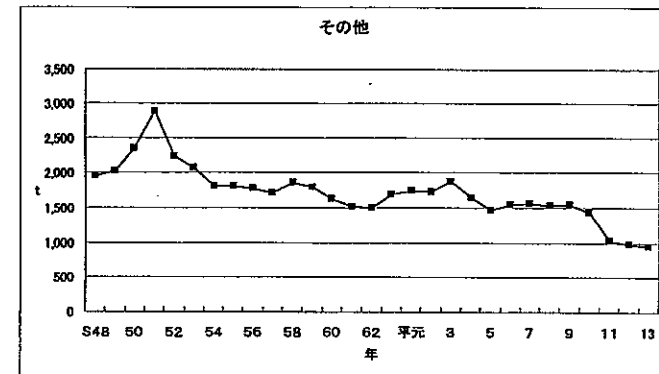
昭和48年以降、約3百～約7百トの間で増減を繰り返すが、平成元年以降減少し、平成13年には74ト。



○その他

昭和48年の2千ト台から増加し、昭和51年に約3千トでピークとなるが、以降、減少傾向。昭和54年～平成10年は約1千5百～2千トの間で推移するが、平成11年以降1千ト前後に減少。

- ・えび類：昭和48年から平成3年まで約6百～8百トの間を横ばいに推移するが、以降急減し、平成13年には約2百ト。
- ・いか類：昭和48年以降急増し、昭和51年に約1千4百トでピークとなるが以降急減し、昭和54年から約4百～6百トを推移。平成9年以降減少傾向で平成13年は約370ト。
- ・たこ類：昭和49年約630トでピークとなるが、以降減少傾向で昭和62年に245トに減少。以降増加し、平成3～5年頃に5百ト台となるが、以降減少傾向で、平成13年は273ト。



(2) 主要魚種別漁獲量

主要魚種の漁獲量は、S60年代以降総じて減少傾向。

- コノシロ：H6年までは記録なし。H12年まで1千ト程度だったが、H13年に約7千トに急増。
- かたけいわし：S60年の5千4百トが翌年には1千3百トに急減した。以降増加傾向となりH4年に約3千トになるが、減少に転じH7年には約5百トまで減少。以降、2千～2千6百ト以上で推移し、H13年は1千5百トに減少。
- シラス：数百ト～約千トで増減していたが、H11～12年に約3千トに急増。H13年は約1千2百トに半減。
- アサリ：S60年には約3千トであったが、以降急減し平成元年以降H4年まで5百ト以下に減少、H5年に1千ト以上に回復するが以降減少傾向で、H13年には5百ト以下。

単位：ト

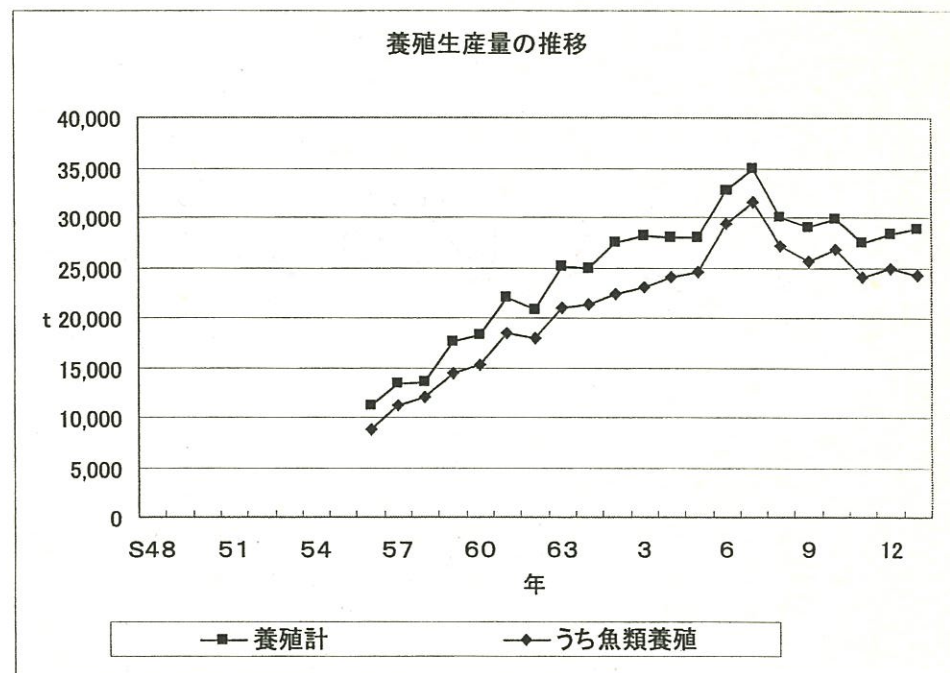
	S60	61	62	63	平元	2	3	4	5
コノシロ
かたけいわし	5,399	1,353	1,915	2,052	2,003	1,810	2,306	3,148	1,257
シラス	205	939	322	957	731	1,131	1,807	1,323	630
マアジ	796	746	869	488	566	1,420	664	959	1,158
ブリ類	67	117	158	243	162	150	135	133	137
カレイ類	380	572	384	364	384	295	239	270	306
タチウオ	980	1,203	1,091	1,142	1,438	1,188	1,166	1,263	1,556
マダイ	421	652	538	477	490	489	485	505	574
ボラ類	343	436	388	378	282	259	266	170	171
スズキ類	303	576	382	366	464	305	231	252	248
クルマエビ	182	129	148	183	189	182	125	114	83
アサリ類	2,890	1,509	931	306	175	470	262	450	1,859
コウイカ類	237	286	318	405	406	377	436	464	399
タコ類	297	276	245	269	343	292	506	529	515

	6	7	8	9	10	11	12	13
コノシロ	...	587	696	630	574	634	1,020	6,847
かたけいわし	1,156	532	2,567	2,550	2,290	2,619	2,133	1,556
シラス	678	269	315	495	1,126	2,970	2,688	1,226
マアジ	772	661	646	1,301	1,107	888	495	436
ブリ類	159	125	98	106	87	100	96	79
カレイ類	369	315	243	225	234	159	129	110
タチウオ	993	851	1,091	1,138	707	428	450	310
マダイ	501	517	514	505	373	351	344	332
ボラ類	163	165	165	164	130	99	81	62
スズキ類	232	219	232	229	170	173	127	133
クルマエビ	136	102	112	109	114	44	46	34
アサリ類	1,664	1,368	1,043	568	941	1,230	1,038	372
コウイカ類	424	433	383	384	428	362	293	279
タコ類	433	454	415	475	383	226	283	273

資料：農林水産省統計情報部「海産漁業生産統計調査」により作成

(3) 養殖業の生産量

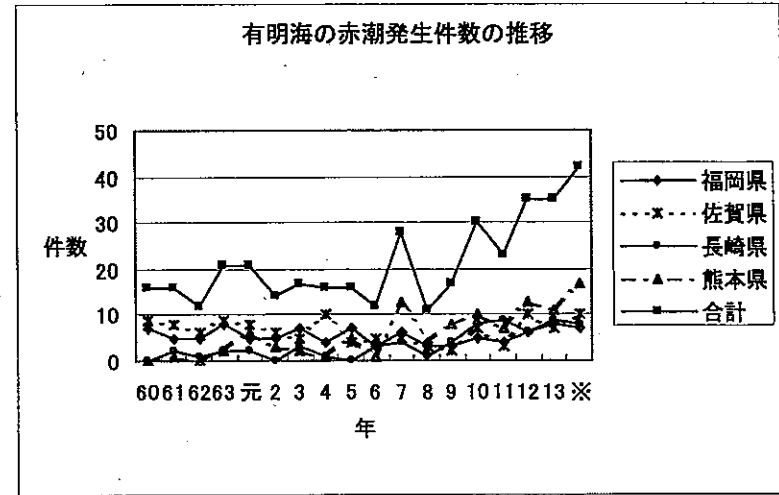
八代海の養殖業は、約8～9割が魚類養殖であり、昭和56年の約1万トから増加を続け、平成7年には約3万5千トで最大。以降、若干減少し3万ト前後で推移。



3 有明海における赤潮発生状況

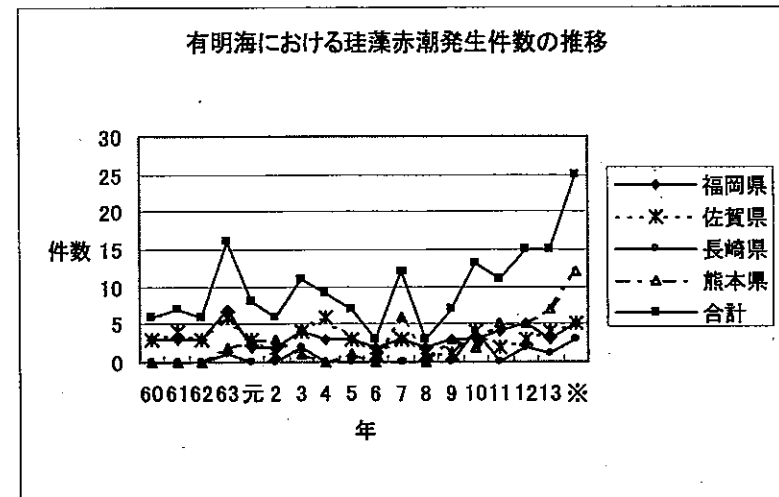
(1) 赤潮全体発生件数について

有明海における赤潮発生件数は、平成8年頃まではほぼ横ばいであったが、その後、各県とも増加傾向にあり、平成14年は42件と過去最高の発生件数となっている。



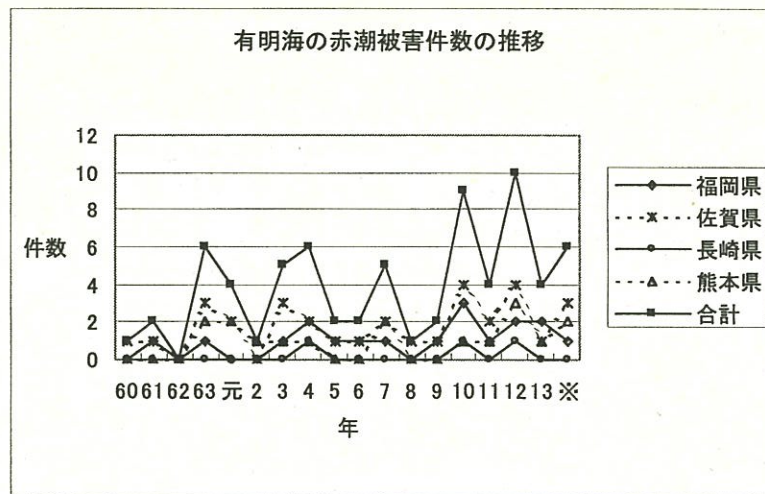
(2) 赤潮のうち珪藻赤潮の発生件数について

発生した赤潮のうち、珪藻赤潮の発生件数についても各県とも増加傾向にあり、平成14年は25件と過去最高の発生件数となっている。



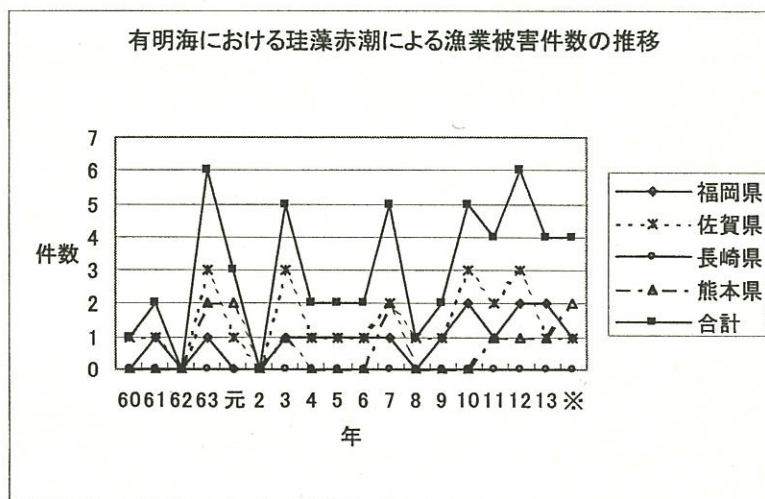
(3) 漁業被害全体について

有明海における漁業被害件数は、赤潮発生件数の増加とともに増加傾向が見られる。被害件数の最も多かつたのは大規模なノリの色落ち被害があった平成12年で、10件の被害件数となっている。



(4) 漁業被害のうち珪藻による被害について

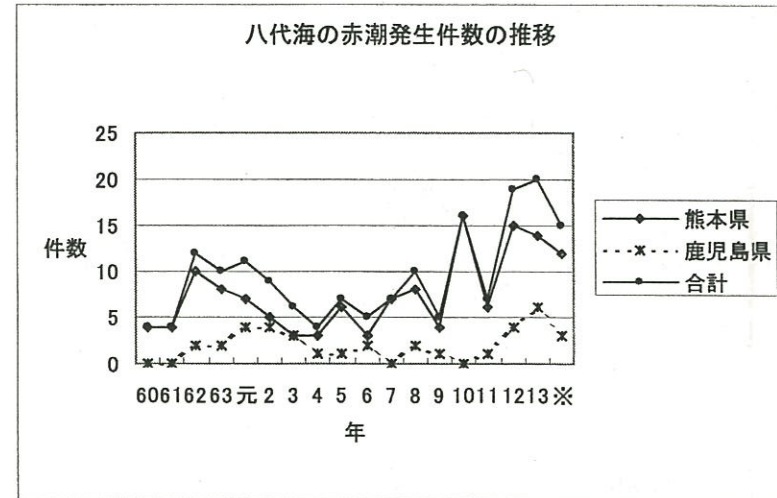
珪藻プランクトンによる漁業被害は、そのほとんどがノリの色落ちの被害である。赤潮全体の被害に占める珪藻による漁業被害の割合は高く、平成12年度は10件のうち6件、13年は4件全てが珪藻の被害となっている。



4 八代海の赤潮発生状況及び漁業被害

(1) 赤潮発生件数について

八代海は途中一時発生の減少が見られたものの、近年は増加傾向を示し、平成13年に20件とこれまでの最高発生件数となっている。



(2) 漁業被害件数について

漁業被害については、全体をとおして目立った増加傾向は見られなかったが、ここ数年被害件数の増加が見られる。
八代海における漁業被害は主として養殖魚の被害が中心となる。

昭和63年は8月～9月にかけて、*Chattonella antiqua* による養殖魚類の被害が続けて発生している。また、平成12年においては *Cochlodinium polykrikoides* により養殖魚類の被害が発生し、被害金額において史上2番目の大規模なものとなっている。

